



小金井市との懇談に参加する渡辺さん(左から2人目)と小野寺さん(3人目)

## 公契約制定を求める 小金井市へ自治体キャラバン

東京春闘共闘会 渡辺さん(左から2人目)と小野寺さん(3人目)の懇談に参加する渡辺さん(左から2人目)と小野寺さん(3人目)が、自治体キャラバンを実施し、今年で14回目を迎えます。1月22日、小金井市役所

東京春闘共闘会 渡辺さん(左から2人目)と小野寺さん(3人目)が、自治体キャラバンを実施し、今年で14回目を迎えます。1月22日、小金井市役所

「自治体キャラバン」を実施し、今年で14回目を迎えます。1月22日、小金井市役所

「生活実態」

・景気の改善が話題になっていますが、賃金は15年前と同水準で全く実感がありません。  
・年金は足りないので仕事をあきらめたい。  
・仕事はできるが、気持ちのゆとりはない。



「現場の状況」

・作業時間が1日12時間はありますが、作業時間が長い。  
・材料等が10月より値上げしている。  
・現場内の汚れが目立つ。外国人が多く、仕事をするのが難しい。  
・休憩所の室温管理の仕方が悪く、とても寒い。凍えながら休憩している。このような職場環境なのに、セネコンを金まで手詰。

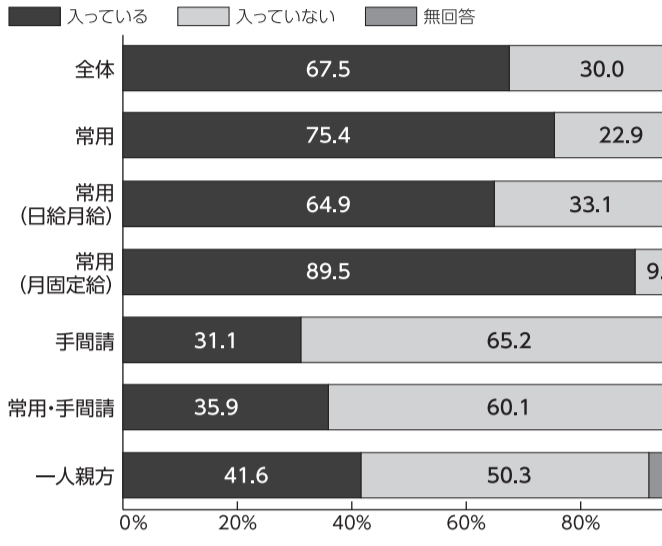
「組合への要望」

・今の組合は、参加する人が限られていて、参加しない人が参加しない。労働組合をたの会社のようになっている。  
・それは書記局にも問題がある。組合員をお客さん扱いしすぎる。組合費を自分の金で使ってほしい。  
・組合費を自分の金で使ってほしい。  
・組合費を自分の金で使ってほしい。

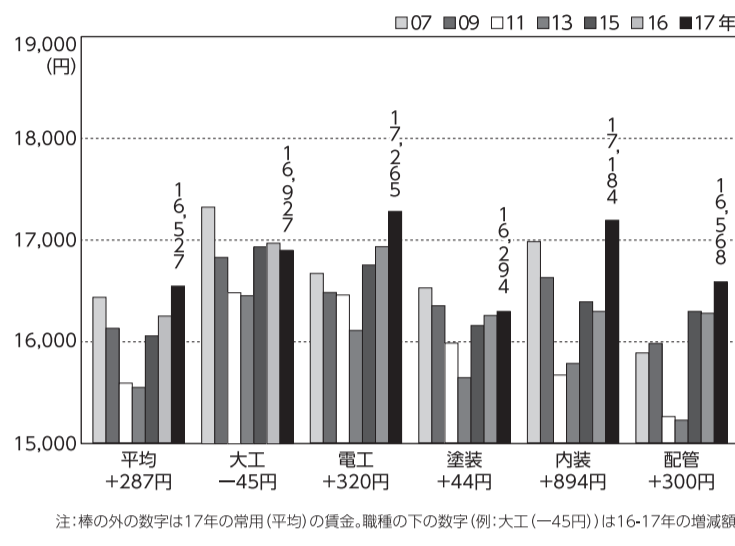
# みんなで声を上げ 賃金、単価の引き上げを

東京都連2017年賃金調査報告書から

図表10 働き別別、社会保険加入比率(法人のみ、2017年)

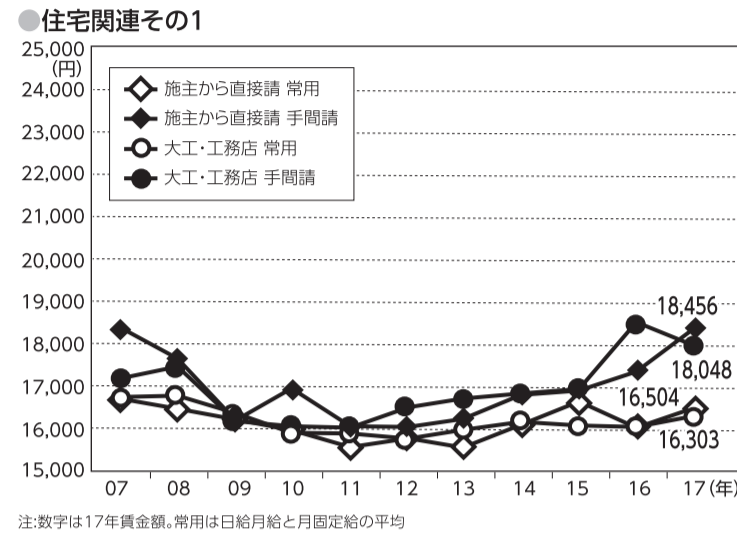


図表6 5職種別の常用賃金の推移(2007年～2017年)



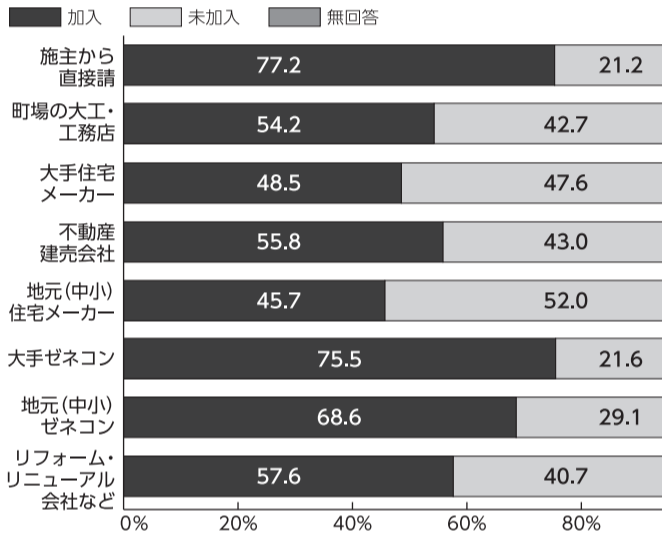
注:棒の外の数字は17年の常用(平均)の賃金、職種の下(例:大工(-45円))は16-17年の増減額

図表2 仕事先別、常用・手間請賃金の推移(2007年～2017年)

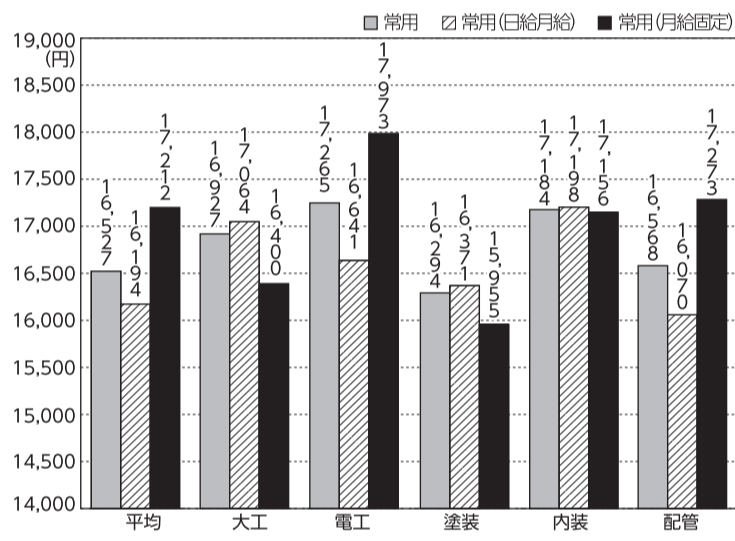


注:数字は17年賃金額。常用は日給月給と月固定給の平均

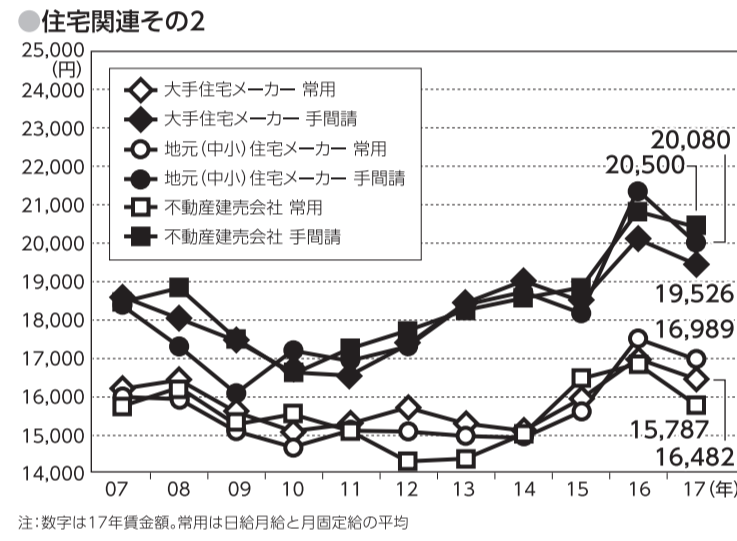
図表11 仕事先別社会保険加入比率(法人のみ、2017年)



図表7 5職種別の常用(日給月給・月固定給)賃金(2017年)

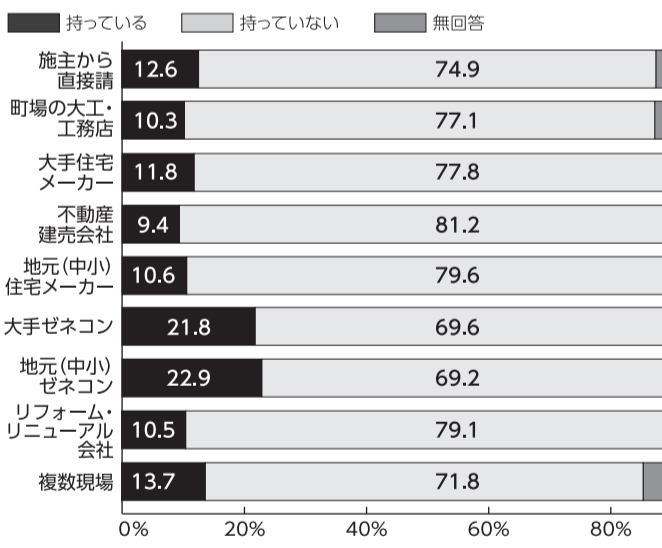


図表3 仕事先別、常用・手間請賃金の推移(2007年～2017年)

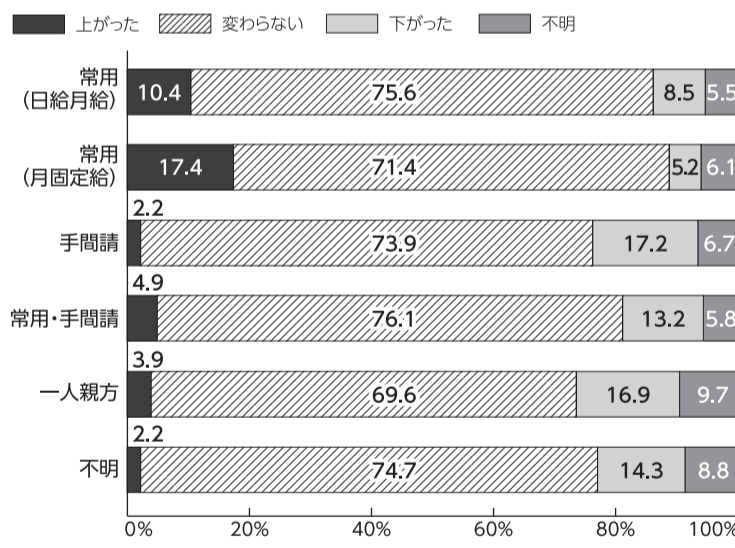


注:数字は17年賃金額。常用は日給月給と月固定給の平均

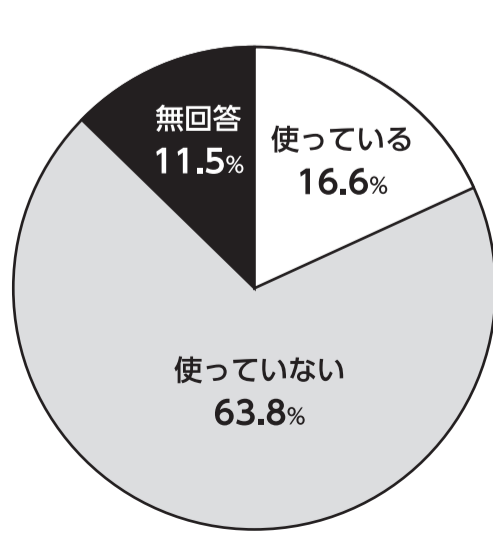
図表12 仕事先別 建退共手帳の所持割合(2017年)



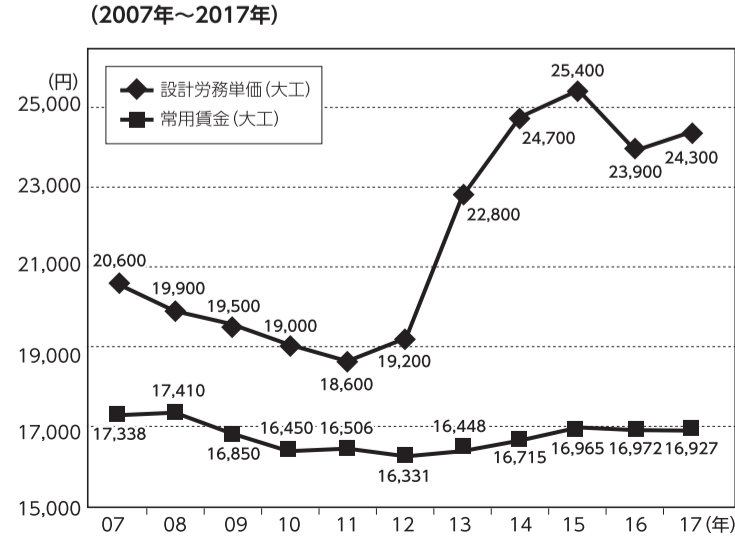
図表8 働き別別賃金引き上げ・引き下げ状況(2017年)



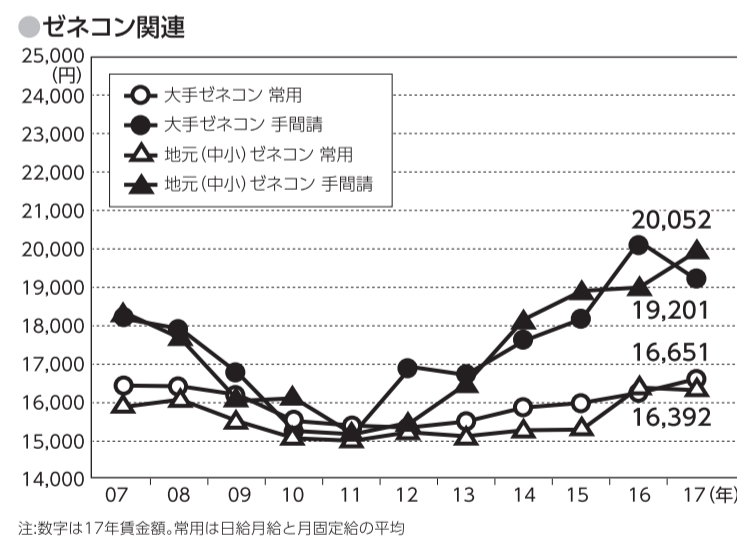
図表13 標準見積書の使用状況(2017年)



図表9 設計労務単価(東京・大工)と常用(大工)の賃金の推移(2007年～2017年)

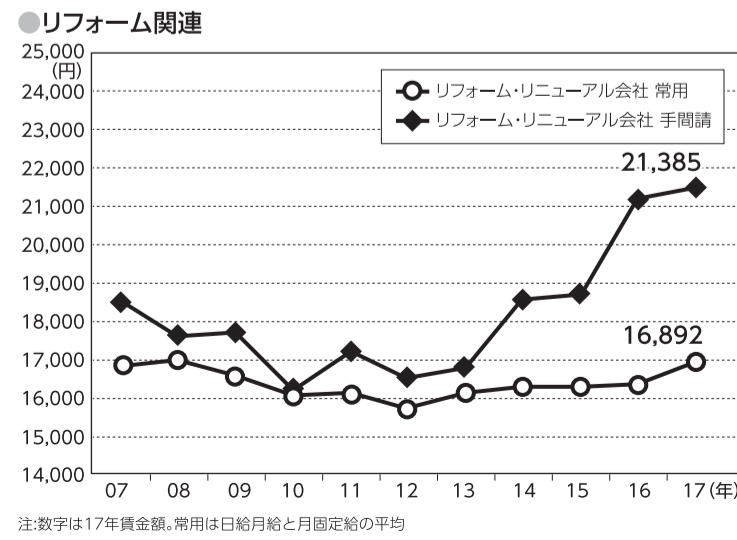


図表4 仕事先別、常用・手間請賃金の推移(2007年～2017年)



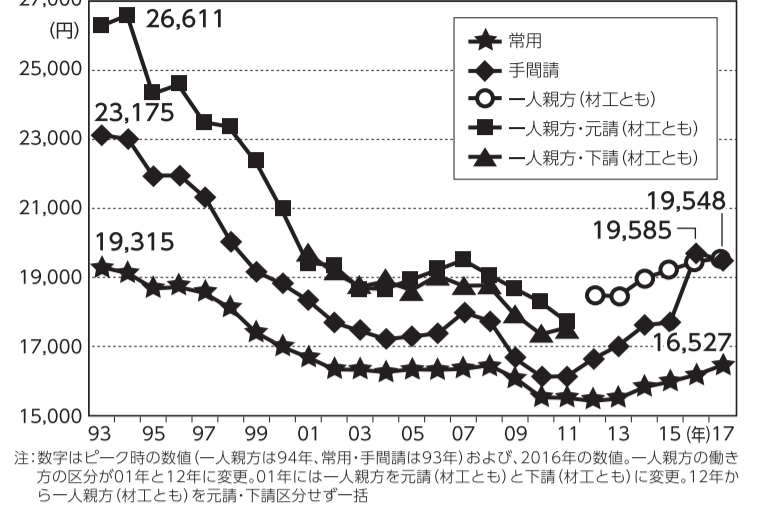
注:数字は17年賃金額。常用は日給月給と月固定給の平均

図表5 仕事先別、常用・手間請賃金の推移(2007年～2017年)



注:数字は17年賃金額。常用は日給月給と月固定給の平均

図表 常用・手間請・一人親方の働き別別みる賃金の推移(1993年以降)



注:数字はピーク時の数値(一人親方は94年、常用・手間請は93年)および、2016年の数値。一人親方の働き別別区分が01年と12年に変更、01年には一人親方を元請(材工とも)と下請(材工とも)に変更、12年から一人親方(材工とも)を元請・下請区分せず一括

2017年5月に全連総連東京連合会が実施した賃金調査の結果が報告書としてまとめられました。調査に参加協力したのは約1万7600人、有効回答数は1万8400人(前年比113.4人減)です。本紙ではいくつもの項目についてお知らせします。

## 政策的な上げ実感はなく リーマンS前水準には回復

2017年の賃金では、働き別別に見ても「常用」はこの5年間で上昇し続け、1日あたり約1000円(16年比は287円)の増加となっており、2008年のリーマンショック前の水準を回復しています。しかし「常用」「手間請」「一人親方」のいずれも消費税率3%から5%に引き上げられ景気が冷え込みにくい状況です。

上記のように、平均では87円上がっています。一方、「月給給」と「月固定給」を比較すると(図表5)、平均では「月固定給」が高くなっていますが、大工、内装、塗装は「日給月給」の方が高くなっているのがわかります。2013年から設計労務単価は政策的に引き上げられてきた。しかし、図表9に見ら

れるように、賃上げは微増にとどまり、設計労務単価との差が大きなものになっており、その政策効果を実感できるものではないと見えます。運動の一層の強化が求められています。

社保加入は3人に2人

図表11は社会保険への加入状況。前年より9%近く加入率は伸び、約3人に2人が加入しています。しかし、働き別別みると(図表10)、常用以外には半数以上が加入していません。また、仕事先別に見ると(図表11)、大手・地元ゼネコン、施主から直接

せむい標準見積書の使用状況は図表13。前年より2.1%活用が広がっているものの16.6%、6人に1人が使っていないと過半数。